

2005年5月13日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2005年4月度 高島屋営業報告

2004年6月にレストラン街の運営を東神開発㈱に移管した立川店の前年数値を調整し、岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋・高崎高島屋の分社4店を含めた18店計の売上高を前年対比の実質数値として表記しています。

【総計】(前年対比、単位：%)

本年	実質
0.6	0.9

百貨店事業の売上前年割れにより、広域事業(法人事業・通販事業)が3月度に続き好調であったものの、高島屋総計の実質売上高は前年対比 0.9%となった。

【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

本年	実質
1.1	1.4

各店で展開した営業施策の奏効や春物商材の順調な動きが見られたが、中旬の売上鈍化が影響し、実質ベースで関西地区合計が 3.6%、関東地区合計が±0%、18店計では 1.4%と前年実績には及ばなかった。

【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	0.3	4.2	7.8	5.9	14.7	9.3
入店客数	2.9	5.6	5.6	7.4	24.1	9.8

関西地区合計	
本年	実質
2.4	3.6

大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	+2.9	0.7	+2.0	1.2	5.4	13.1	2.1	+6.2
入店客数	12.3	2.4	3.5	+0.1	+1.7	10.0	2.0	8.1

関東地区合計	
本年	実質
3.8	±0

横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

立川店の売上高:実質 2.4%

関西地区では、大阪店は特選衣料雑貨が競合の影響で苦戦したものの、リニューアル効果が持続する食品や紳士服・婦人雑貨等が牽引して大阪店単店(同+0.1%)では前年実績を上回った。京都店は特選衣料雑貨が苦戦し、岐阜店はリニューアル工事の影響が大きく、前年実績に達しなかった。関東地区では、東京店はリニューアルの継続的な効果や紳士服関連、リビング商材が好調で前年実績を上回った。横浜店は特選衣料雑貨・宝飾品・食品が好調であったが競合の影響を受けた紳士・婦人服や雑貨が不振で前年を僅かに下回った。一方、新宿店は主力の紳士服・婦人服等のファッションアイテムが全般的に好調に推移した結果、前年実績を上回った。

【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業	広域計
売上高	+3.2%	+11.9	+6.3

法人事業は企業向けの販促品や制服等の売上計上が順調で前年実績を上回った。通販事業は初夏企画(4/11発刊)のファッション・リビング・食品が好調な結果、前年実績を大きく上回った。

【商品別概況(百貨店協会商品区分)](前年対比、単位：%)

	本年	実質
紳士服・洋品	0.9	1.5
婦人服・洋品	4.4	4.8
子供服・洋品	4.5	5.5
その他衣料品	7.3	7.3
衣料品計	3.9	4.4

	本年	実質
身のまわり品	2.9	2.8
家具	3.1	3.7
家電	+130.0	+121.1
その他家庭用品	+7.4	+6.5
家庭用品計	+9.0	+7.9

	本年	実質
食料品	+1.9	+1.3
食堂・喫茶	5.0	+0.8
雑貨	+3.0	+3.1
サービス	+12.6	+12.3
その他	10.8	10.5
合計	0.6	0.9

当社分類による百貨店事業の商品別概況(実質)

主力の紳士服(前年対比 1.9%)・婦人服(同 3.6%)が春らしい気候に伴って、ようやく春・初夏商材に動きが見えはじめた。アイテムとしては紳士服では綿・麻のジャケットやニット、婦人服でも麻素材のジャケットや柔らかな素材のスカートが好評であった。特選衣料雑貨(前年対比 6.7%)は関東地区計(同+1.7%)では前年実績を上回ったが、関西地区計(同 17.0%)が不振。食料品は大阪店(前年対比+6.3%)、東京店(同+5.2%)、横浜店(同+2.2%)等、主力店舗が好調で前年実績を上回った。